

# 地域社会と暮らしの

# 進化を

ちなみに、近隣地域の光ファイバー網の整備状況は、新庄市ではNTTの一部地域を除いて整備済み、真室川町では町が国の整備事業の採択を受け、昨年度全町に整備し今年3月から供用開始、舟形町でも町が国の事業採択を受け今年度事業着手、来春に供用開始の予定となっています。

**（老朽化著しい防災（広報）無線放送）**  
 防災行政（広報）無線放送施設は、朝夕の定時放送や火災発生情報、行政事務連絡などの一斉放送、さらには各地区内放送などの利用で、町民のみならずにすっかり定着していますが、1980（昭和55）年の開局から28年が経過し極めて老朽化しています。頻繁に発生する故障を修繕しながら使用していますが、いつ使用できなくなっても不思議ではない状況にあるため、将来の一斉放送のあり方について、早急に結論を出す必要に迫られています。

**ブロードバンド その利点は？**  
 光ファイバー回線は、ADSL通信と違い、距離による通信速度の低下も情報量の劣化もほとんどありません。このため、もし、このブロードバンド環境が町の全地区に整備されると、高速大容量通信をどの家庭や事業所でも快適に利用できるようになり、日本国内のみならず世界各国とのインターネット環境の格差が解消されます。特に産業分野においては、生産者と

# いきいき「アイティ」のまちづくり

# ～地域情報化ビジョンを探る～

**「地域情報化」って何？**  
 平成16年に行った町内全世帯対象のアンケートでは、回答いただいた1,466世帯（回答率84・6%）家庭の約半数にパソコンがあり、そのうちの約60%がインターネットに接続しているという結果でしたが、現在さらには利用率が上がっていることが予想されます。このパソコンの普及のしかたを見てもわかるように、インターネット通信をはじめとする情報関連技術（Information Technology＝略してITともいいます）は、社会のあらゆる分野に浸透し、私たちの日常生活にも極めて密接なものになってきました。

ITシステムを、行政や地域住民の日常に有効に活用できるようにシステム化することが「地域情報化」です。

行政内部の事務の効率化のためのITシステムの整備とともに、住民個々、住民と住民の間、行政と地域・住民の間さらには企業活動といったさまざまな場面でのIT環境を整備することは、生活や地域づくりに必要な情報の共有や、活動への参画をさらに広げる環境づくりでもあり、住民福祉の向上を旨とする地方自治を運営する上でも、極めて大事な課題になっていくのです。

**わが町の情報環境は？**  
**遅いインターネット速度**  
 現在開発されているIT機能を有効かつ効率的に利用するために欠かせないのが、大容量の情報を高速通信できるブロードバンド（BroadBand＝幅の広い帯域という意味）というIT基盤です。これは主に光ファイバー（ガラスやプラスチックの細い繊維を使って光で通信する仕組みで、通信速度が現在最も速い）を使った通信で、全国的にはNTTなどの通信事業者などにより95%を超える世帯をカバーするまでに整備が進められてきていますが、通信事業者にとって投資効果の少ないわが町を含む農山漁村・山間地など人口密度の低い地域では、依然として未整備のままです。整備された地域とのIT環境格差があるという実態です。

わが町のIT通信環境は、町民有志のみなさんによる要望活動の結果、2004（平成16）年2月に、NTTのADSL（非対称デジタル加入者線の略称で電話回線を利用した通信網）が全町に開通し、現在に至っています。

しかしADSLは、NTT集約局（電話交換所）からの電話線距離が概ね5km以上になったり、同じ路線に利用が集中したりすると著しく通信速度が低下し、さらには、動画などの大容量の通信には向かないという欠点がありインターネットを利用している多くの人から不満の声が聞かれます。インターネット利用者が今後さらに増えれば、通信速度が全体的にさらに低下することが予想されます。

消費者など遠距離にいる複数の相手との情報交換、企業同士での大容量データの受信、自宅で会社の仕事をする在宅ワークなどもしやすくなります。

行政サービスでは、今の防災行政（広報）無線放送に替わる設備や、介護・福祉・医療におけるテレビ電話の活用、大量の行政事務情報を紙を使わずに配信するなど、新たな情報発信の方法やサービスを提供することも可能になります。

**急がれるわが町の地域情報化ビジョン**  
 前述のように、わが町の地域情報化が、将来どうあるべきかの検討が急がれることから、その方向性を示していただくために、8月20日に「金山町地域情報化ビジョン検討委員会」（地域代表の5名と農林商工業界代表5名の計10名の委員）を設置し、地域代表の阿部利広さん（山崎）を委員長に、今年度末の答申をめざして活発な議論が展開されています。

委員会には、総務省東北総合通信局の担当職員がアドバイザーとして加わり、行政の各分野に関しては役場の関係各部署の職員が専門班として検討を進めています。

町では、この検討委員会の答申を踏まえて、来年度（平成21年度）に、財政措置のあり方を含めた具体的な手順となる「金山町地域情報化プラン」（仮



第1回地域情報化ビジョン検討委員会の模様（8月20日）

**ご協力をお願いします**

**インターネットアンケート**

地域情報化ビジョンを検討するにあたり、パソコンやインターネットの利用環境、広報無線放送の状態、携帯電話の通信状態、地上デジタルテレビ放送の受信状態などとともに、地域情報化に対するみなさんご意見や要望などをおうかがいするため、全世帯を対象にアンケートの記入をお願いしています。

アンケートの集計結果については、検討委員会の議論の参考にさせていただきますとともに、町の広報やホームページにより公表する予定です。みなさんご理解とご協力をお願いします。

回収は、各家庭からは、11月10日（月）までに隣組長に。隣組長は12日（水）までに、区長に届けてくださるようお願いいたします。